

新総合事業を探る

- 476-481 **1** 取り組みが一巡した「総合事業」で見えてきたこと
●岩名礼介
- 483-491 **2** 地域リハと連動した新総合事業の推進
—埼玉県のこれまでの取組を中心に
●鈴木淳子
- 492-498 **3** 被災地におけるリハ活動と新総合事業
●阿比留友樹, 他
- 500-505 **4** 新総合事業と高齢者支援の実際
●安本勝博
- 506-511 **5** 地域力を生かした住民主体の地域づくり 地域の力は無限大！—可能性を見だし, 可能性にかけたかわり
●江田佳子
- 513-521 **6** 総合事業（介護予防・日常生活支援総合事業）の実践を通して, 地域をつくる
●田中明美



平成 29 年 4 月から全国の市区町村で「介護予防・日常生活総合支援事業」（いわゆる「新総合事業」）が始まった。2025 年にむけた地域包括ケアシステムの充実を図るため、予防活動のさらなる推進とボランティアなど地域住民と協同した支え合いの取り組み、地域づくりの活性化が強調されている。本事業は、制度導入以前に準備期間として試行的な活動も実施され、地域の実情に応じた参考実践が行われていた。

今回の特集では、「新総合事業」の政策背景をふまえたうえで、制度化前から移行を通じての先進的な実践活動を紹介しながら「地域づくりの中での新総合事業」の現状を探ってみたい。

企画担当 ●伊藤隆夫（日本訪問リハビリテーション協会 相談役, 理学療法士）